

【合唱コンクールに向けての話合い】での活用事例 (中学校全学年)

【活用した資料】

- 中学校版「心みつめて」p.30 第一章「お互いに…」松下 幸之助
p.154 第三章「集団の一員としてよりよく生きていくために」

【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 4-(4)「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団の向上に努める。」

○ 学級活動で、合唱コンクールに向けた取組についての話合いをするきっかけとして…

合唱コンクールに向けて練習を進めていこうという時期に、学級活動で「心みつめて」第一章(p.30)松下幸之助の「お互いに…」の言葉と、第三章(p.154)「集団の一員としてよりよく生きていくために」を取り上げ、話合いのきっかけとしました。

合唱練習では、「声を出さない人がいる。」「歌詞を覚えていない人がいる。」「正確に歌えない人がいる。」といった指摘が出され、それが基となって、練習が思うように進まなかったり、人間関係に問題が生じたりすることがあります。そこでまず、「心みつめて」第一章(p.30)の松下幸之助の言葉を取り上げ、誰もが欠点をもっていること、それを互いに補い合いながら人は生きているということ、補い合う前提としてまず自分の責任を全力で果たしていかなければならないことを、一人ひとり、自分の身に置き換えて捉えさせました。

次に、「心みつめて」第三章(p.154)「集団の一員としてよりよく生きていくために」を読ませ、「集団の中でのあなたの役割は？」の欄に、自分の考えを記入させました。委員会活動や係活動、部活動を挙げる生徒だけでなく、家族の中での自分の役割について考える生徒もいました。互いの意見を発表し合う中で、生徒は自分が他にも様々な集団に所属し、様々な役割を担っていることに気付いていきました。

その後、合唱練習を進めていく上で課題となっていることを、どのように解決していけばよいかということについて、話合いを行わせました。

生徒は、自分の果たすべき役割は何なのかを真剣に考え、「自分のパートの音取りをしっかりとやる。」「パート・リーダーとして一人ひとりの取組の様子や課題をしっかりとみる。」「指揮者として全体の声量やハーモニーについてアドバイスをしていく。」など、自分の目標を具体的にもつことができました。

この経験は、合唱練習だけでなく、他の様々な場面においても、「集団の中における自分」という視点から自分の言動を見つめようとする態度を育てていくきっかけとなりました。

○ 合唱コンクールを通して感じたことや考えたことをまとめるために…

合唱コンクール終了後に、ここまでの取組を通して感じたことや考えたことを振り返らせるために、「心みつめて」第一章の松下幸之助の言葉をもう一度読ませ、自分は自分の責任を全力で果たすことができたか、また、誰かを補うことができたかという視点から、自分自身を見つめさせました。さらに、「心みつめて」第三章「集団の一員としてよりよく生きていくために」を活用して、日常生活の様々な場面において、所属する集団における自分の役割や、その集団をよりよくするために自分にできることについて考えさせました。

生徒からは、「合唱コンクールでの、あのハーモニーの一部を、自分の声がつくり上げたように、学校や地域の中でも、自分の役割を果たすことで、ハーモニーが生まれていくのだということがわかった。」といった声が挙げられました。